

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 インターナショナル・コミュニティ・ネットワーク(ICN)

1 事業の趣旨・目的

子どもの日本語指導を行っているボランティアの指導技術・能力向上によって、子どもたちの日本語能力および学校も含めた社会での生活能力の向上をめざす。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月5日	所沢市役所	持丸邦子 湯沢智子 辻 恵子 唐寄勝子 大野恭弘 小田良子 横溝賀代子 飯泉潤子 小川珠子 池嶋恵里奈 佐藤良博 栗原淑子 (オブザーバー)	1. 子どもの現状 2. 広報活動 3. 今後の予定・課題	添付文書「運営委員会 議事録」参照
11月18日	所沢市役所	持丸邦子 辻 恵子 小田良子 横溝賀代子 飯泉潤子 小川珠子 池嶋恵里奈 栗原淑子 (オブザーバー)	1. 事業経過報告 2. 今後の予定・課題・その他	添付文書「運営委員会 議事録」参照

※運営委員会はいずれも「子どものための日本語教室」の運営委員会を兼ねて開催した。



3 講座の内容について

- (1) 講座名 「子どものための日本語ボランティア実践研修講座」
- (2) 目標 子ども達により良い学習支援を行うために、支援の質を向上させる知識・技能を修得する。
- (3) 受講者の総数 24人 (出身・国籍別内訳 国籍については調査せず)
- (4) 開催時間数(回数) 34時間 (17回)
講義 28時間 (14回) 実習 4時間 (2回) 見学 2時間 (1回)
- (5) 参加対象者の要件
市内および近隣で子どもに対して日本語指導をボランティアあるいはそれに近い形で
行っている方
- (6) 受講者の募集方法
 - ①市の広報紙への掲載
 - ②市内での募集チラシの配布:
市内公共機関、小中学校、民生委員、教職員組合員)
 - ③近隣3市:国際交流協会を通じた募集チラシ配布
(添付文書:募集チラシ)
- (7) 会場
 - ア 講義 所沢市生涯学習推進センター
 - イ 実習 所沢市立新所沢公民館
 - ウ 学校見学 所沢市立美原小学校、所沢市立北小学校
- (8) 使用した教材・リソース 講師作成の資料

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月10日 14:00～16:00	子どもの支援－全国の状況	早稲田大学大学院 日本語教育研究科教授 池上摩希子	19人
7月17日 10:00～12:00	学校内の色々な人々 (座談会)	所沢市立向陽中学校 PTA 会長 三原由紀子	17人
7月31日 10:00～12:00	子どもの支援－他市の状況	入間市国際交流協会 在住外国人支援部会市民スタッフ 岡嶋優子	15人
7月31日 13:30～15:30	理想の支援とは？	日本社会事業大学社会事業研究所 特任准教授 山口幸夫	16人
8月18日 10:00～12:00	初期指導	中国帰国者定着促進センター 教務部常勤講師 小川珠子	17人
8月18日 13:30～15:30	学校での学習状況－理科(小・中)	元中学校教諭 上石正明	11人
8月20日 10:00～12:00	学校での学習状況－社会(小・中)	所沢市立牛沼小学校教諭 篠原 謙 元中学校教諭 山田 裕	12人
9月4日 10:00～12:00	学校での学習状況－英語(中)	元中学校教諭 山下富美子	12人
9月4日 13:30～15:30	子どもの声を聞く(支援を受けた体験発表)	高校生(2名)	11人
9月11日 10:00～12:00	学校での学習状況－実技(中)／進路指導	所沢市立美原中学校校長 齋藤 仁	14人
9月11日 13:30～15:30	学校での学習状況－算数・数学	武蔵村山市教育委員会 教育センター教授 木村洋子	11人
9月25日 10:00～12:00	学校での学習状況－国語(小)	元小学校教諭／ICN 会員 栗原淑子	16人
9月25日 13:30～15:30	学校での学習状況－国語(中)	元中学校教諭 中山千賀子	12人

10月9日 10:00~12:00	学校での学習状況－ 高校	埼玉県立所沢高校定時制教諭 佐藤良博	11人
10月9日 12:00~13:00	閉講式、懇親会		
9月3日～10月22 日の中から希望日 (1日) 10:00~12:00	実習(1回目)	ICN 日本語ラウンジ	14人
9月3日～10月22 日の中から希望日 (1日) 10:00~12:00	実習(2回目)	ICN 日本語ラウンジ	13人
11月5日 9:00~11:00	学校見学－実技(小)	所沢市立美原小学校、 所沢市立北小学校	8人

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

最後まで受講した場合、各教科の学校での学び方を説明する教科ごとの講義で、講義内容が教科の内容というよりも、学びの必要性を強調するものになっていた教科には、不満が出されたが、全体的には高い評価だった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

現・元教員が初期にのみ受講し、夏休みに入ってから受講しなかった。現教員の場合、夏休み中の講座が平日だったために出勤日と重なって出られなかった、また、ある程度予想されたとおり、後半の内容が小・中学校での授業内容についての講義だったため、出席する必要性を感じなかったため、と思われる。

教員経験者と大人への日本語ボランティア経験者とが一緒に学ぶ時の講座編成には相当の工夫が必要である。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

現在、教育センターが進めている外国出身児童・生徒の教科学習支援体制を市内全校に定着させていくことを応援するとともに、ICN による放課後・長期休暇期間中の学習支援のいっそうの充実を図る。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

研修内容の多くは日本語教室で即、活用している。
他市のボランティアとの情報交換の場になり、西武線沿線の中学生のための高校進学ガイダンスにつながった。

② 研修後の人材活用

受講者がすでに会員になって、子どもの日本語学習支援に

入っている。

(12) 今後の課題

市内で個人的にボランティアをしている人たちへの講座の広報伝達の方法を工夫する。

来年度の講座をどのようにするか、講座終了後の第2回運営委員会では決められなかった。大人対象の日本語学習のボランティア講座に概論を組み入れてもらえないかどうか検討してもらっている。



中学校での実技科目の現状(斎藤仁先生)
(2011年9月11日 午前)



小学校の国語(栗原淑子先生)
(2011年9月25日 午前)